

# 1人1台端末の活用による実践事例 (小・中学校用)

学校名	矢掛町立矢掛中学校	実践者名	石川 智美
教科	国語	学年	1年
活用内容	スピーチ改善	実践日	令和4年1月18日
		授業活用段階 (岡山県版)	Stage 2
単元・内容等	「自分のお気に入りの本を紹介する [ビブリオバトル] に挑戦！」 互いにアドバイスをして、コメントや動画から自分の考えが分かりやすく伝わるように工夫する。		

## 活用の概要 (目的・活用場面・使用アプリ名を含む)

(1) めあてをつかむ。

めあて より考えが伝わるスピーチになるように、互いにアドバイスをして、改善点を見つけよう



(2) グループごとにビブリオバトルのスピーチ練習を行い、互いにアドバイスをする。

- ・動画を撮影し、自分のスピーチを客観的に分析する。
- ・実際に友達の前でスピーチをしながら動画を録画することで、緊張感をもって取り組めるようにする。
- ・ヘッドセットのマイクを使用することで、他者の声を気にすることなく、練習や録画ができるようにする。
- ・アドバイスが共有、記録できるようにグループメンバーの原稿へコメントを入力する。



(3) 自分のスピーチに対する改善点を考える。

- ・動画と友達のアドバイスを基に改善点を考えて、もう一度動画を撮って確認する。



(4) 振り返りを行う。

国語科「話すこと、聞くこと」を扱う授業において、一人一台端末を有効に使い、まさにこういう授業をしてほしいというモデル授業だった。(国研 学力・教育課程調査官より)

実践者の手ごたえ	児童生徒・保護者等の主な反応や声
グループでのアドバイスで、人前でしゃべるのが苦手な生徒にとっては、Google のコメント機能を使うことによって、自分の意見を伝えることができたのは良かった。	(生徒のようす) 「間が空いたり、飛んだりしていた。」「声が小さくなっていた。」「早口になっていることに気付いた。」「目線が下になっている」など、友達からの意見と自分の動画を客観的に見て改善点を見つけることができた。